

# 歴史資料館だより

## 聖隷歴史資料館の開設について

新歴史資料館を開設することができました。二十三年ほど昔、創設に関わった方々がお元気なうちに聖隷の創設の精神を学び受け継ぎたいと願い、一九八〇年、聖隷五十周年の聖隷学園の記念行事として聖隷に関わる資料の蒐集を始めました。まず長谷川家にあつた写真や長谷川保が国会議員をしていたころの貴重な資料などを提供したところ、西村先生や内山徳治さんを始め多くの方々が資料を提供してくれました。資料館を開設してしばらくした時、内山たつさんが体育館の一階にあつた資料館にこられて「珍しいものがあつた、これは最初の患者さん、桑原さんが亡くなった時、記念に立てた記念碑の一部だよ、古い建物の下から見つかった」といってキリストがロバに乗ってエルサレムに入城する絵が彫られたブロック状の

## 聖隷学園理事長 長谷川 了

ものをもつてきました。その後資料館は第一級の資料である恩賜記念館に移され展示されましたがさらに事業団側に保存され、このたび聖隷学園に里帰りしました。今回は電通関西支社の協力を得て約一年間の準備を積み重ねて斬新な新資料館を開設することが出来ました。資料館の入り口に次の文章を掲げました。

歴史資料館で学んでいただきたいこと

- 一、聖隷は多くの人に助けられ支えられて、厳しい困難を乗り越ええることが出来る
- 現在にいたつたことを学んでいただきたいと願います。

二、聖隷の先人達は、キリストの十字架によつて、罪あがなわれた者にふさわしい生き方をしたいと願い、主に従つた。その生き様を学んでいただきたいと願

います。

## ＝創刊号＝

(季刊)

発行者 聖隷歴史資料館  
 〒四三三-1855 八  
 浜松市三方原町三四五三  
 聖隷クリストファー大学一号館二階  
 Tel. 〇五三(四三三九) 一四一六

います。

三、創設者長谷川保は「聖隷の働きが神のみこころに適わないものになった時には、直ちに聖隷を滅ぼしてほしい」とたびたび祈っていました。聖隷の歩みの中心には常に神様の導きとそれを求める祈りがあつたことを学んでいただきたいと思います。われわれの働きが神様に導かれ祝されるものであり続けることを願います。

### ◆ 聖隷歴史資料館のご案内 ◆

開館時間 一〇時～一七時

(一六時三〇分までに入館して下さい)

休館日 土日、祝祭日及び聖隷学園の

休館日 休業期間

聖隷集団の各法人・施設の職員、入居者は休館日であっても入館できます。休館日に入館希望の方は予めお問い合わせ下さい。

入口正面絵画について

フォード・マドックス・ブラウン

「ペテロの足を洗うキリスト」

(1881~82)

聖隷学園キリスト教センター長

佐柳 文男

資料館正面を飾る絵は、十九世紀英国の画家フォード・マドックス・ブラウンの作品である。最後の晩餐の情景(ヨハネによる福音書十三章)が描かれる。

ここでは十人の弟子だけが描かれる。中でも、ペトロとユダがとくに大きく描かれる。左から二番目にいるのはトマスではないか。イエスが身の尊厳を損ない、品位を下げてペトロの前に跪き、足を洗われる姿に疑念の目を向ける。

その隣、頭を抱え込んでいるのは熱心党シモンか。その陰から覗く臆病そうな人物はマタイか。ペトロを真正面から見据えるのは弟のアンデレだろう。その隣、不安そうに寄り添う二人はヨハネとヤコブの兄弟であろうか。ペトロの陰になった人物もいる。ペトロの肩越しに覗き込んでいるのは既に足を洗っていただいた人物ということであろう。



モデルは画家ブラウン自身ではないだろう。フォード・マドックス・ブラウンは弟子たちの驚き、困惑、戸惑いを捉えた。彼は社会的リアリズムをモットーとし、徹底した写実を重んじた。理想ではなく、現実を写実することに徹した。この絵も現実の人間の苦悩を捉えて見事である。

歴史資料館の四つの聖句(その二)

ヨハネによる福音書十三章一〜十五節

イエスは……食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださいのですか」と言った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。(抜粋)

人は奴隷であっても命令されなければ他人の足を洗うことなどしない。秀吉が小者であった時に主君信長の草履を自分の懐に入れて温めたという話がある。しかし如何に忠勤の秀吉であっても信長の足を洗ったという話は聞かない。ましてや信長が秀吉の足を洗うことなど想像もできない。イエス様が弟子たちの足を洗うというのは異様な行為である。

イエス様は「主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない」と言われる。イエスに従おうとする者は、文字通り、互いに足を洗い合わなければならないと言っただろうか。世界のキリスト者は何をしてきたと言っただろうか。

## 歴史資料館近況とこれからの動き

「聖隷事業の根本にはキリスト教信仰があり、創業者は常に聖書に立ち返り、愛の実践を重ねてきました。」聖隷歴史資料館は、そのことを視点の中心に据え全面に打ち出しています。

キリスト教精神を基に運営していくことを大切に、聖書に学ぶ姿勢を保つ聖隷集団の各法人・各施設と結びついて、歴史資料館は必ず大きな意味と存在感を持つと考えています。自らの立ち返る場を確認する場となるばかりか、聖隷学園キリスト教センター及び遠州栄光教会と協力・連携をしてキリスト教精神を喚起し、発信していくことで、聖隷集団に属する各法人・施設の一体感・結束力を維持発展させていくための大きな力ともなりうると考えます。

歴史資料館は聖隷集団の共有財産です。聖隷集団の法人及び施設の職員、入居者の皆さんにはできる限り自由な時間にご覧いただけるよう各法人には資料館入り口の鍵をお預けしています。大切にお預かりしている資料ですから聖隷学園が責任をもって資料を保管管理し、歴史資料館の運営にあたります。歴史資料館館長には長谷川力聖隷福祉事業団会長になっていたことに決まりました。

歴史資料館では今年度の重点計画として、聖隷クリストファー大学社会福祉学部開設記念式典にあわせてインド聖隷希望の家、ブラジル

希望の家の特別展を用意すること（九月末まで開催中ですが、一九六六年以降の歴史資料収集と整理の方向性の検討、聖隷グループの体系樹の見直しと修正、今後の特別展の企画準備を掲げました。この特別展は二〇〇二年一〇月には十字の園、二〇〇三年四月以降は半年毎に小羊学園、牧の原やまばと学園、神戸聖隷福祉事業団、遠州栄光教会、聖隷福祉事業団、聖隷学園の順に開催していく予定です。現在、一〇月から予定されている十字の園特別展の準備が少しずつ始まっています。十字の園では、今から一〇年ほど前に三〇周年記念誌「夕暮れになつても光はある」が編集発行されましたので、資料はかなり整理されているようです。その後新たな資料なども見つかるように、その後新たな資料なども見つかるようにと聞きますので今から楽しみます。一九六六年以降の歴史資料の収集は聖隷集団の各法人を中心に現存資料の調査にかかっています。

この他歴史資料館では現在、収蔵している資料リストの整理と照合を進めながら、未編集の映像資料のDVD化を行っています。一〇月頃には、これらの貴重な映像資料を公開することができると思います。どうぞ、ご期待ください。

今回新たに発行した「歴史資料館だより」は季刊とする予定ですが、臨時に発行することもあると思います。どうぞお楽しみに。

（聖隷学園法人事務局長 堀口 路加）

これは外面的にイエス様のなさったことを模倣せよという意味ではない。イエス様は別のところで、「自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない」（マタイ十章三十八節）と言われる。これも文字通りに十字架をかついでいなさいということではない。

常々、イエス様は弟子たちに、互いに受け入れ合うよう教えておられた。イエス様は最後の時にこのことをより印象的に教えるために、弟子たちの足を洗うという劇的な行為をなさった。人の足を洗うということは、その人を受け入れることを象徴する。主であり、師であるイエス様が弟子たちの足を洗われたということは、イエス様が弟子たちを受け入れておられることを意味する。そしてそれは彼らが神に受け入れられていることを意味する。

人を受け入れるということは、その人を赦し、愛することである。アウグスティヌスも人の足を洗うということはその人の罪を赦すことだと言った。

イエス様の教えは、愛してくれる人を愛しなさいということではない。受け入れてくれない人、愛してくれない人を愛しなさいということである。イエス様は裏切り者ユダの足をも洗われた。

（佐柳 文男）

◆運営ボランティア募集のお知らせ

歴史資料館では、運営ボランティアを募集します。運営ボランティアの方々にお手伝いいただく仕事の内容は大きく分けて二つあります。一つは、収蔵している資料の分類、整理にご協力いただくためのボランティアです。歴史資料館には未整理の講演テープ、原稿、種々の記録が集められていますのでご協力ください。もう一つは、来年度から、聖隷グループ各法人の職員研修や新任者オリエンテーション、聖隷学園の新生入生、保護者を対象にした歴史資料館見学会が計画的に組まれることとなります。回数にして延べ数十回に及ぶものと予想されます。そこでこの見学会において展示資料の説明をしていただくためのボランティアを多く必要としています。資料整理と資料説明のどちらかひとつでも構いません。ご協力いただける範囲でご都合のよい日時にお越しただければ結構です。

活動を本格的に始めていただくのは二〇〇三年度からですが、それまでに下打ち合わせ会を開催し、説明のポイントやシナリオを確認しつつ、聖隷にゆかりのある方々が集える場をつくりたいと考えています。

募集は七月二十二日から随時行っています。お

申し込み・お問い合わせは、聖隷歴史資料館担当高山みゆき(電話〇五三―四三九―一四一六)までお寄せください。お名前・ご連絡先をお知らせください、折り返しご連絡を差し上げます。どうぞよろしくお願ひします。

\*\*\*\*\*

◆刊行物のご案内

長谷川 保著

『夜もひるのように輝く』  
本書は、聖隷の創設者、長谷川保氏の苦闘の半生を小説風に書き残した記録です。登場人物は仮名を用いています。すべて実在する人物で、事件も実際に起こった出来事を題材としています。

昭和四十六年に初版が刊行されて以来第十五版まで刊行され、その後は、版權を講談社から譲り受け、装丁を変えて、聖隷サービスクから刊行されることとなりました。

本書は、歴史資料館においてお求めいただけます。また、本書を朗読したカセット・テープも用意しています。ご購入・試聴を希望される方はお気軽にお申し出ください。

◆◆歴史資料館入館者の声(抜粋)◆◆

私の目に一番に飛び込んできたものは、そう、まさにイエスが奴隷のように人の足を洗っているあの有名な場面『ペテロの足を洗うキリスト』だった。私はそこから動けなくなった。なぜか視線をそらせなかった。私にはその場面が絵には見えなかった。足を洗うイエスの腕の筋肉、桶の水、行為を見つめる男たち視線、しぐさ、態度……そこには「生きている絵」があったのだ。どのくらいの時間の中、見入っていたのだろう……不思議なほどに飽きない。人間の生身の存在を全身で感じってしまうのだった。―これが私の資料館との出逢いだった―

すでに『夜もひるのように輝く』を読んでいたのですが、その本の中に出てくる登場人物や写真があると、頭の中でつながって嬉しかった。全フロアに存在する展示物には、本当に心にぐっとくるものがある。鍵盤はずれて、傷だらけほりだらけで、ボロボロになったオルガン。金属部分の形がわからなくらい腐食した鍍金、ひたすら手洗いの洗濯を行った擦り切れてつるつるの樽、線やコメントで余白なく手垢で真っ黒の聖書。あの時代、あの場所で練り広げられたノンフィクションストーリー。汗と涙と血の中で必死に耐えてきた彼ら。私が一冊の本を読んだだけでは簡単に語ってはいけないドラマを、目で指で体で感じてしまった。(聖隷クリストファー大学看護学部一年生)